

全世代に向けた食育活動

株式会社明治

■明治の食育について

消費者に対する食育活動の歴史は長く、1955年に「工場見学」をスタートさせたことから始まる。1974年からは、乳製品の摂取促進を目的とした「出前料理教室」を開始し、食育基本法がスタートした翌年の2006年に現在の講義形式の活動をスタートさせた。明治が取り扱っている素材である「乳」や「カカオ」をテーマにして、その歴史や背景なども伝えることで、「食」に興味を持ってもらうことを大切にしており、健全な食生活を通じ、心とからだの健康に貢献することを目的としている。また、幅広い層に向けた多彩な食育プログラムを展開しているのも、大きな特徴となっている。

工場見学

乳製品、お菓子合わせて全国の7か所で、牛乳・ヨーグルト・チーズ・チョコレートの製造工程が見学できる施設（明治なるほどファクトリー）を展開している。それぞれの工場で体験できる内容も特徴があり、牛乳の栄養や乳酸菌について学べる施設、ヨーグルトに特化した施設、チョコレートの生産工程をからくりと映像で楽しく学べる施設などがある。

食育セミナー・出前授業

対象に合わせて双方向・参加型の30以上のプログラムがある。小学生・中学生向けのプログラムでは年代や目的に合わせてきめ細かく組んであり、たとえば「なるほど！がっばいみるく教室」は、5種類の用意がある。その他、高校生・学生・社会人向け、シニア向けなどを展開している。企業向けにも、「社員のための健康経営応援セミナー」として、「健康なカラダづくり」と「食の楽しさ」をテーマにしたプログラムを用意している。

■食育活動の社内体制

食育活動の社内体制が整っているのも特徴で、全国7都市（札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡）に食育担当を配置。管理栄養士を中心として約60名が食育担当として対応にあたっている。



所在地：東京都中央区

明治乳業が前身。2011年4月より、食品・乳製品・飲料・菓子事業を中心とした新会社「株式会社明治」となった。あらゆる世代に向けた幅広い商品ラインアップを持ち、世界中に「おいしさ・楽しさ・健康・安心」届けている。

明治グループ全体として目指す「明治グループ2026ビジョン」では、明治グループ100年で培った強みに、新たな技術や知見を取り入れて、「食と健康」で一步先を行く価値を創造し、日本、世界で成長し続けることを掲げている。

■近年の食育活動

食育という従来では子供向けのイメージが強かったが、2012年頃からは高校生や学生、社会人、シニア層まで幅広いニーズに対応できるようなプログラムを展開している。

高校生や学生向けには、「部活動・クラブ応援セミナー」や「学生のための健康応援セミナー」などで高校生アスリートの食事や朝食の大切さを伝え、社会人には、未来も健康であるためにできることから栄養改革をしてもらうためのセミナー、シニアに向けては、水の摂取の大切さ、フレイル予防などをテーマにした取組を行っている。

になっている。

オンライン化についても、オンラインセミナーなどの開始が早かったため、コロナ禍で体験や対面形式の取組が難しくなった際も、それほど慌てることは無かった。オンラインにすることで、これまで距離的な問題でカバーすることが難しかった離島などの地域に住む人にも、食育活動を行えるようになったというのは大きな利点である。

■食育関係の情報発信

明治が行っている食育活動は、専用ホームページで詳細に発信している。また、行事食や食にまつわる記念日を紹介した「食育カレンダー」や、四季折々の食にまつわるテーマで自然の恵みをとらえた「食コラム」など、コンテンツも充実している。食育の情報誌「めいいく」もWEB上ですべてのページを読むことができる。

■今後の食育活動

「明治らしさ」を常に考えた活動を行っていきたい。食品企業として「健康」というイメージを大切にして食育にも力を入れていく。

オンライン化が促進したことにより、教育現場も変わってきている。地域によっては、小学生1人に1台のタブレットが標準になっているところもある。今後この流れは加速すると思われるので、今までと同じ手法ではなく、アクティブラーニングなど、受け手が1人体制の食育プログラムなども考えていきたい。

